

プロとしての誇りと自信をもって

病院長 西俣 寛人



いま、一般の企業では技術力を高めたり、組織のスリム化を図り競争力を高め、生き残るために必死の取り組みが行われています。病院も経営という視点から、一般の企業のようにさまざまな戦略を立てて生き残りを図っていかねばなりません。ところが、病院は競争というものになれていない。従来どおりやっていたらなんとかなるといった経営方針では南風病院の将来はありません。

そうした明日が見えない時代の中で、我々は今何をしなければならないのか？一つは、南風病院が地域の人々だけでなく働く職員にも本当に魅力ある病院なのかを真剣に考えていかないといけません。二つめは、南風病院が急性期病院として地域社会にどれだけ評価されているかを患者紹介率で知り、それにどう対応すべきかを検討し、その結果をすばやく実行に移す必要があります。

魅力ある病院であるということの一つに、健全経営があります。当院はずっと健全経営を続けてまいりましたし、そのことは外部に向かってもっとアピールしてもいいと思います。また、若いドクターにとって魅力ある病院とは、自分のステータスを上げることができる病院ということになります。若いドクターが誇りを持って診療に従事し、臨床研究をおこなえる環境を整える必要があります。

新たな患者さまの獲得については、当院の先端医療機器を利用したドック検診をおこなうなど、アイデア次第でいい方策が生まれてくると思います。現に地域医療に関しては、地域医療課が新しい発想を盛り込んで実績につなげています。

最後に、職員一人ひとりがプロ意識をもって仕事に取り組んで欲しいと思います。プロとしての誇りと自信をもっていれば決して威張らないし、だれにでもやさしく接することができます。病院も舵取り一つで変わる時代ですが、根底にあるプロ意識は時代がどうあろうと普遍的な価値なのです。南風病院が地域に必要な病院であるための努力を全員でおこなっていきます。

Nanpuh Hospital